



日持ち性が極めて良いピンク色の  
カーネーション新品種  
「カーネ愛農1号」を開発  
(平成27年9月品種登録出願公表)



日持ち性の比較(試験開始9日目)

本研究の一部は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業及び国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構との共同研究により実施しました。

愛知県は全国第2位のカーネーション産地ですが、輸入品の流通量が増加しています。このたび、日持ちが良く、長い期間観賞することができるスプレーカーネーション「カーネ愛農1号」を、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構と共同で開発しました。

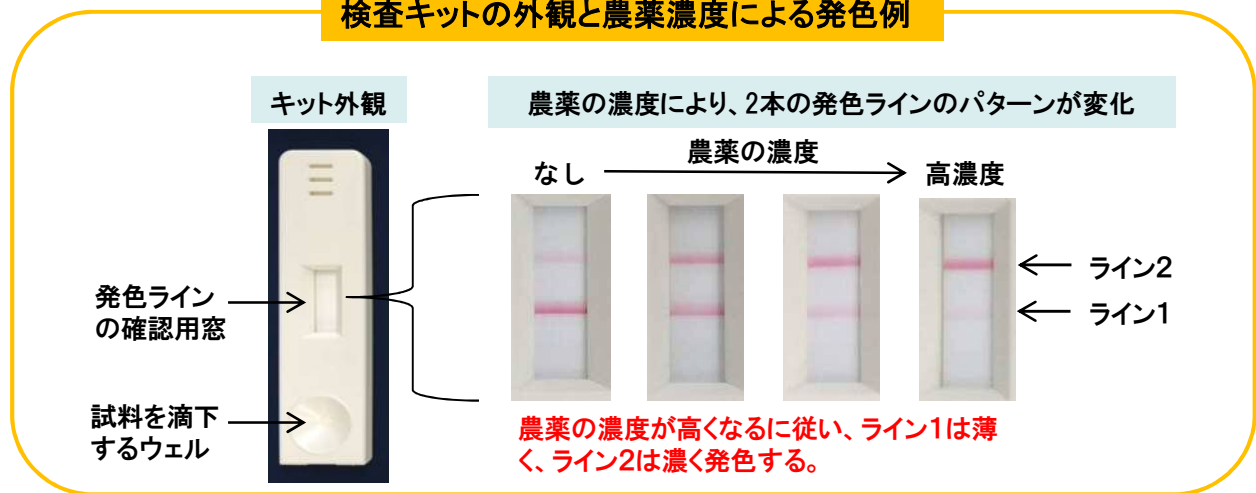
日持ち性が一般的な品種の3倍程度と

極めて良く、室温25℃では3週間程度、花を楽しむことができます。更に、花が大きくボリューム感があり、茎の伸長性が良いため、切り花の品質も良好です。

この品種が普及することで、日持ちの良い国産カーネーションの購入が可能になり、国産品の評価が高まることが期待されます。(園芸研究部)

## 残留農薬を簡単・迅速に測定できる検査キットを開発

### 検査キットの外観と農薬濃度による発色例



### 測定の手順



### キット開発済み農薬

クロロタロニル、フェニトロチオン、アセタミプリド、チアクロプリド、イミダクロプリド、ニテンピラム、チアメトキサム、クロチアニジン、ジノテフラン、ボスカリド

※ 上記以外の農薬についてもキット化を検証中。

本研究は、知の拠点あいち「食の安心安全技術開発プロジェクト」で、豊橋技術科学大学、京都高度技術研究所、科学技術交流財団、(株)堀場製作所、愛知県衛生研究所との共同研究で実施した成果です。

農業総合試験場は、農産物から農薬を簡易に抽出する手法の開発と検査キットの性能評価試験などを担当しました。

農産物に残留する農薬を簡単・迅速・安価に測定できる検査キットを開発しました。このキットは、抗原抗体反応を利用して農薬を個別に検出できます。また、難しい操作が不要で持ち運び易く、生産現場での検査が可能です。

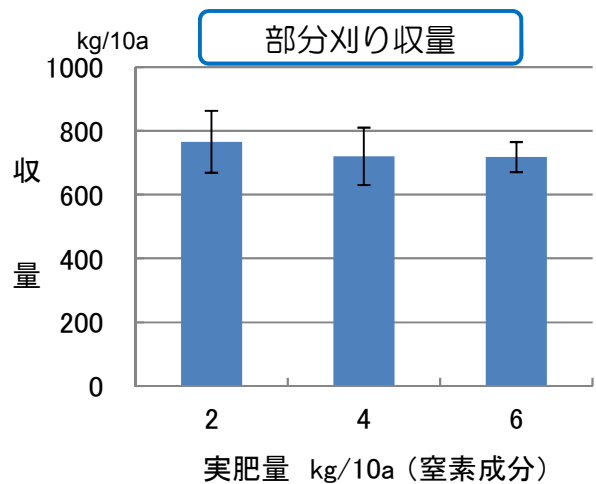
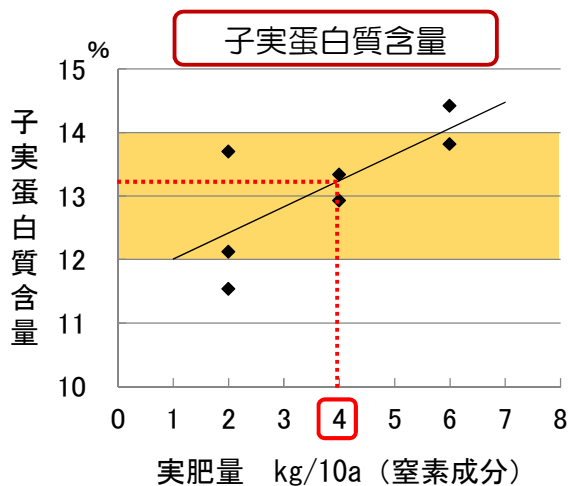
残留農薬の測定は、農産物から農薬を

抽出した液をキットに滴下し、10分後に現れる2本の発色ラインのパターンを色見本と比較して行います。また、スマートフォンのカメラ機能などを利用して定量することもできます。

今後、豊橋技術科学大学が中心となり対象農薬の拡充と製品化を目指します。

(環境基盤研究部)

硬質小麦品種「ゆめあかり」の実肥の施肥方法を確立



実肥量と子実蛋白質含量および部分刈り収量の関係

注) 実肥までの窒素施用量は、基肥=6 (kg/10a)、追肥Ⅰ=4 (kg/10a)、追肥Ⅱ=4 (kg/10a)の分施とし、試験区ごとに実肥を施用した。

愛知県が開発した硬質小麦新品種「ゆめあかり」は、パンや中華めんに加工するため、12~14%の高い子実蛋白質含量が求められます。そこで、子実蛋白質含量への影響が大きい実肥（出穂後追肥）の施用量を検討しました。

その結果、実肥として窒素を4kg/10a

施用すると、子実蛋白質含量が13%程度となることが明らかとなり、部分刈りによる収量も高水準でした。また、基肥を緩効性肥料とした場合も、実肥量と子実蛋白質含量および部分刈り収量の関係に同様の傾向がみられ、施肥の省力化が期待できます。  
(作物研究部)

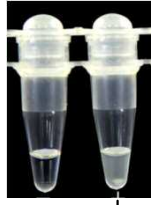
# 研究トピックス

## LAMP法による茎えそウイルスの迅速簡便な診断法を開発

キクやトマトに茎えそ病を引き起こすウイルス（CSNV）の診断法を開発しました。CSNVの感染による被害拡大を防ぐには、早めに診断をして防除対策を立てることが重要です。開発した診断法は遺伝子増幅法の一つであるLAMP法を用いており、手順は極めて簡単です。つまようじを病徴葉の葉柄に突き刺した後、反応液に浸します。63℃で1時間保温後の反応液の色の変化から、CSNVを診断できます。（環境基盤研究部）



CSNVに感染したキク



LAMP法による診断結果  
(-：陰性、+：陽性)

## 「バラにおけるCO<sub>2</sub>長期・長時間施用指針」を作成

光合成を盛んにするため、ハウス内の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）濃度を積極的に高める施用指針を作成しました。ポイントは、①ミスト噴霧による適切な湿度管理（気孔を開きCO<sub>2</sub>を取り込みやすくする）、②施用したCO<sub>2</sub>をハウス外に出さない温度管理と局所施用法です。これにより、総収量や長い切り花の増加が期待されます。（園芸研究部）

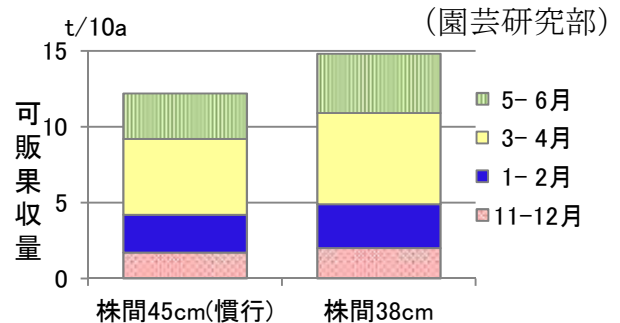


詳細は農業総合試験場Webページの「農業の新技术」をご覧ください。

本研究は農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業で実施しました。

## 「とげなし輝楽」収量アップのポイント

県が育成したナス「とげなし輝楽」の栽培指針を作りました。この品種はとげがなく快適に作業ができる上に、受粉作業を省略できる性質（単為結果性）があります。株間を45cmから38cmに狭め、年内は側枝を2芽残して切戻すなどにより収量性が向上します。



栽培のポイント「栽植密度による収量の違い」

詳細は農業総合試験場Webページの「研究の成果」をご覧ください。

## 雨水、太陽光発電を活用したミニトマト栽培システムの実証

中山間地では、施設栽培に必要な水や電気の確保が難しい場合があります。このため、雨水をためて水源として利用するとともに、太陽光発電でバッテリーに蓄電した電力によりかん水管理を自動化するミニトマト栽培システムを実証しています。本システムにより、条件不利地でも少ない初期投資で施設栽培が可能となります。（山間農業研究所）



雨といを利用し水源の確保



太陽光発電による電源の確保

研究短報第115号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>